

◆コロナ関係

新規感染は日を追うごとに減ってきて、1日の新規患者が2万人程度となりました。兵庫県では1000人を切り警戒レベルも下がっています。第7波の収束は近づいている感じです。ニュースで報道される外国の映像では、ほとんどがノーマスクであり、国民性の違いを実感しています。

◆病院・慈恵会グループからのお知らせ

・公益財団法人 日本二分脊椎・水頭症研究振興財団のホームページがリニューアルされました。

・新須磨病院

院内ロビーなど各所にある椅子をクリーニングしました。病院移転後7年が経過し、経年による汚れと、コロナ感染時に椅子に張っていた間隔をあける表示を剥がした後の汚れが目立ってきたためです。

また、北側駐車場のラインや矢印も新たに引き直しました。

・神戸総合医療専門学校

2024年に開学50年を迎えるにあたり、現在記念誌を作成中です。先日、学校で理事長と校長の対談をおこないました。



いい言葉 養正(ようじょう)

初代天皇である神武天皇の建国の詔(みことのり)に記載されている言葉です。先日、思想家執行草舟さんの講演会で知りました。

正しさを養うことの重要性を日本では、古代より天皇家より発せられ、脈々と受け継がれてきたとわけです。

いろいろな価値観が錯綜し、安物の正義が振りかざれている昨今、正しさを養うという「養正」の意味を再度考える必要があると思いました。

◆今週の院長予定

10月10日	月	スポーツの日							
10月11日	火	7:45運営会議、9:00外来、14:00手術、17:30業務改善委員会							
10月12日	水	松江							
10月13日	木	9:00~11:00来客、15:00エリーネス須磨往診、16:15神戸校運営会議							
10月14日	金	9:00外来、14:00手術、20:00須磨区医師会							
10月15日	土	11:00若宮神社秋祭り、15:00須磨区医師会病院長会議							

◆私の本棚

・ヒコベエ

藤原正彦 新潮文庫

数学者で文筆家の自叙伝。まさしく生死をかけて満州から引き揚げてきた藤原一家の物語を絶妙の語り口で描いている。

作者の母 藤原ていさんが引き上げの悲惨な状況を描いた「流れる星は生きている」はベストセラーとなった。父は山岳小説で知られる新田次郎さんと数々の名作を送り出している。中でも「八甲田山の彷徨」は一押しの名作。

昭和初期の食べるものがなく、着るものもない日常が描かれている。それでもこの作者にかかると悲惨さが薄れ、ほほえましい状況が浮かんでくるから不思議。国家の品格、祖国とは国語など、おススメ著書多数。



慈恵会グループの紹介④

公益財団法人

日本二分脊椎・水頭症 研究振興財団

1993年に開設した内閣府所管の公益財団です。松本悟前会長(神戸大学医学部名誉教授、前新須磨病院常任顧問)の夢と、澤田善郎前理事長の想いが重なりあってできた財団で、二分脊椎症の研究助成と啓発活動をおこなっています。

今は、長嶋達也会長(兵庫県健康財団理事長)と、つくも事務局長、そして理事長である私が活動を引き継いでいます。この度、ホームページを一新しましたので、一度ご覧ください。

財団は、賛助会員の会費によって運営されています。ご支援をお願いします。

神戸で一番
親切で
丁寧で
優しい医療を

